

かんきつかいよう病：銅剤の防除効果と混用散布の薬害発生

かいよう病防除のため、春葉での銅剤の効果比較と混用散布時の果実での薬害発生について検討した。

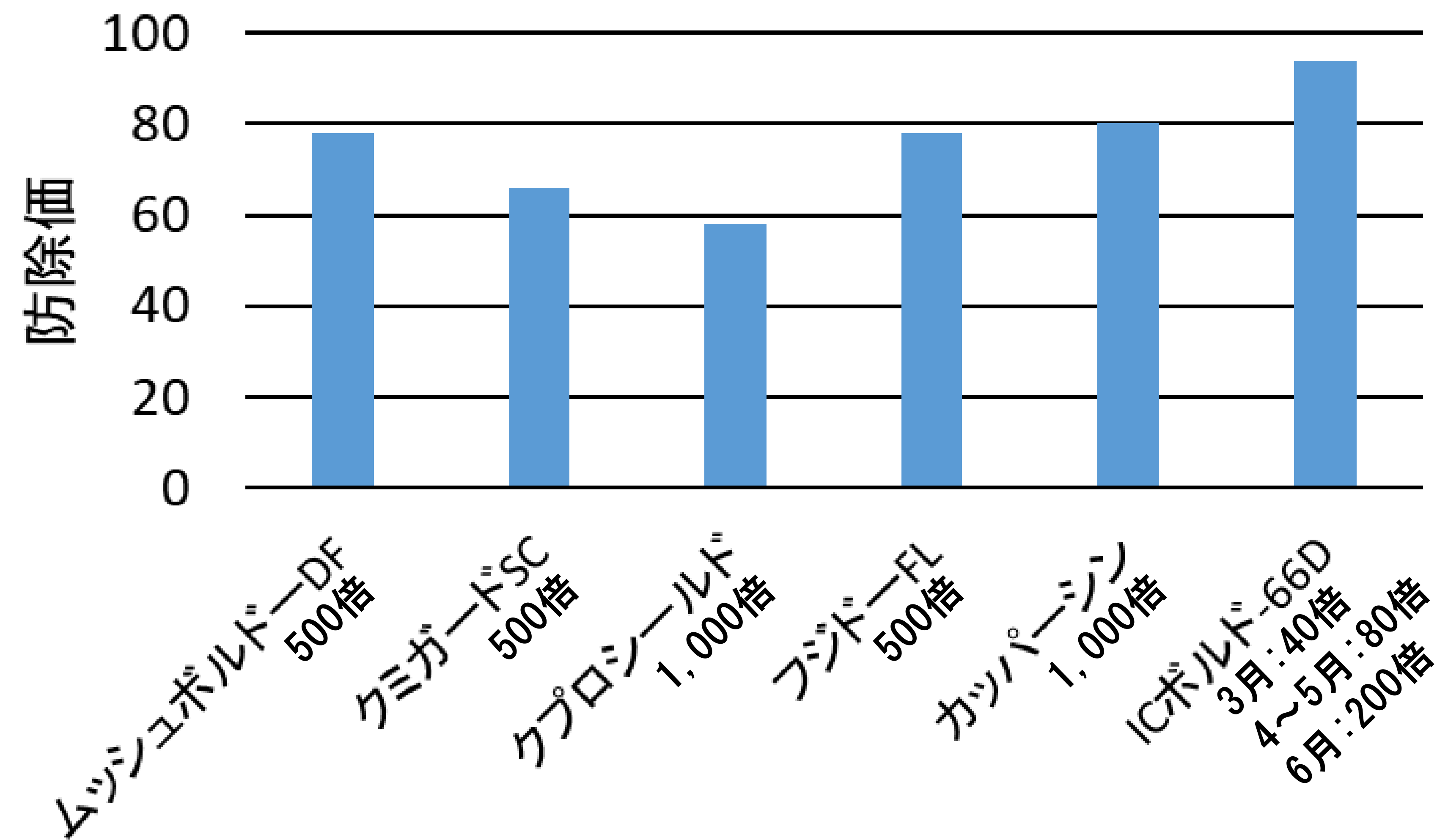
■ かいよう病

- 葉、枝梢、果実で発生し、病斑の中心部はコルク化
- 病斑からは病原細菌が流出し、周囲に伝染



■ 春葉での銅剤効果比較

供試品種：愛媛果試第28号(4年生) 1区1樹3反復

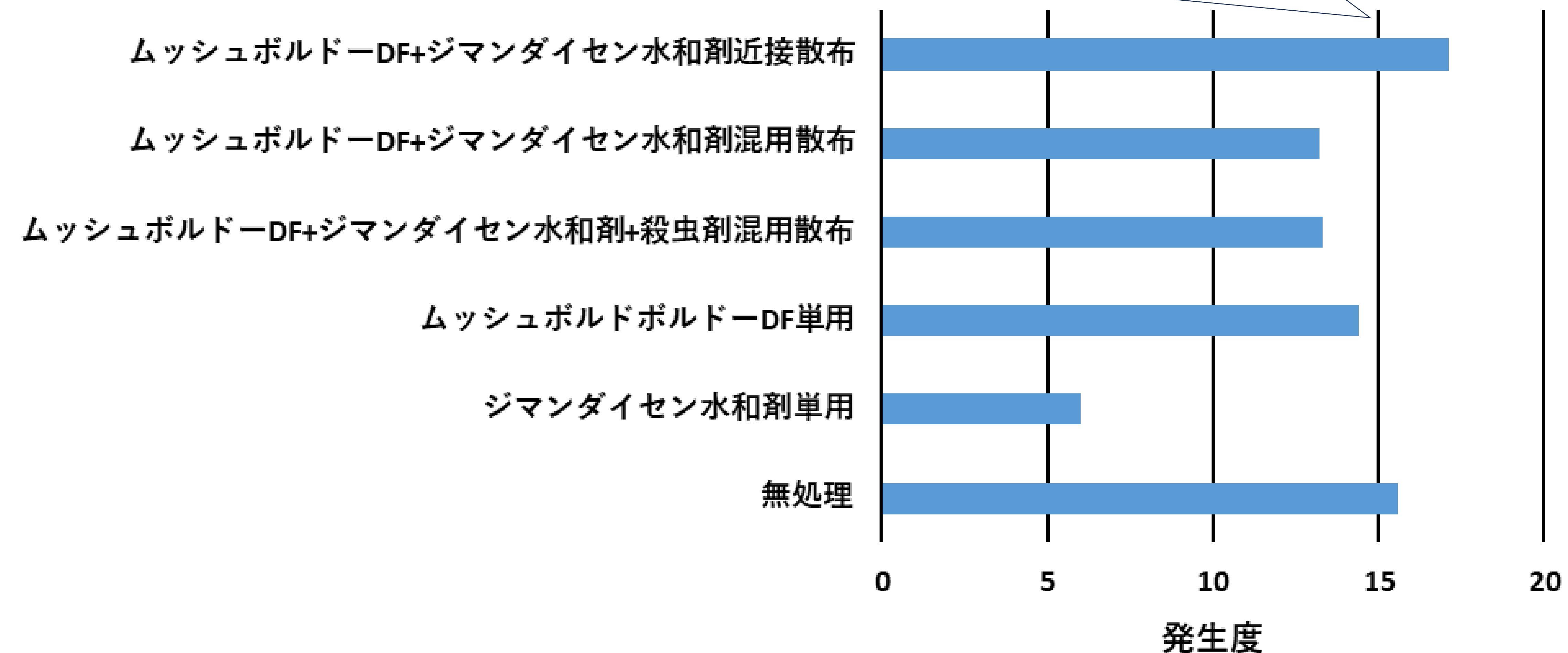


- 接種：2023年3月16日 10葉/樹(2か所/葉)
- 散布：2023年3月20日、4月19日、5月17日、6月16日、調査：7月12日
- 5月以降はICボルドー66D区以外にはアプロン200倍を加用
- 4月と5月のICボルドー66D区はアビオンE 1,000倍を加用

■ 混用散布による黒点症状(黒点病+銅の薬害)の発生

供試品種：甘平(13年生) 1区1樹3反復

混用による黒点症状の増加はないが、銅剤散布区では増加 → 銅の薬害が発生



- ムッシュボルドーDF(1,000倍にアプロン200倍加用)、ジマンダイセン水和剤(600倍)
- 近接散布区：ムッシュボルドーDF散布約1週間後にジマンダイセン水和剤を散布
- 殺虫剤混用区：5月アプロドエースフロアブル(2,000倍)、6月モスピラン顆粒水溶剤(2,000倍)、7月オリオン水和剤(1,000倍)、8月トランスフォームフロアブル(2,000倍)
- 散布日：2021年5月26日、6月23日、7月20日、8月30日、調査日：2021年9月9日

- 春葉で最も防除効果が高いのはICボルドー66D。
- 黒点症状(黒点病+銅の薬害)の発生にムッシュボルドーDFの単用と混用散布による差は認められなかったが、銅剤の夏季散布により薬害(スターメラノーズ)が発生。
- 春季防除の徹底により、発生を少なくしておくことが重要。